	〃	ヨーロッパにおける人口移動	河野　稠果　技官 中野　英子　技官
8	昭57．6．2	親の世帯からの子供の離脱について	池ノ上正子　技官 石川　晃　技官
9	昭57．6．9	最近における地域別人口再生産の動向	石川　晃　技官
10	昭57．6.16	欧米諸国における同棲の増加とその人口学的意味	小島　宏　技官
11	昭57．6.23	死亡力の人口学的分析——その3 社会経済的要因と死亡力水準の変動	高橋　重郷　技官
12	昭57．6.30	アジア諸国の出生ならびに出生抑制行動の比較分析	阿藤　誠　技官

資　料　の　刊　行

（昭和57年4月～6月）

＜資料題名（発行年月日）＞　　＜担　当　者＞

○「研究資料」第227号（昭57．4．1）

日本の将来推計人口 —全国男女年齢別，昭和55～155年—

昭和56年11月推計……河野　稠果　技官
河邉　宏　技官
金子　武治　技官
ほか

○「人口問題研究所年報」昭和56年度（昭57．4）……各　部　科・課

第34回日本人口学会大会

日本人口学会の第34回大会は，昭和57年6月4日（金），5日（土）の両日にわたり，日本大学経済学部（東京都千代田区三崎町）において開催された．今回の大会は，日本人口学会会長でもある同学の黒田俊夫嘱託教授自らを委員長とする大会運営委員会（日本大学人口研究所内に設置）の多大のご尽力によって盛大に行なわれ，終始熱心な雰囲気のうちに充実した大会日程を終了した．会員参加者は100名を超え，本研究所からも多数の関係者が出席した．

大会プログラムは下掲のごとくであるが，本年は学会役員の改選期に当たり，大会直前に行なわれた選挙によって新役員（理事・監事）が選出され，新理事会の互選により篠崎信男氏が新会長に推薦され，会員総会において承認された．なお，かねて辞意を表明されていた前会長黒田俊夫および上田正夫両理事は，永年同学会に尽くされた功績をたたえられ，理事会において名誉会員に推薦され，総会において承認された．

新任された役員（任期2年）を示すと次のとおりである．

会　長　篠崎信男（人口問題研究所長）
常務理事　小林和正（日本大学教授）
〃　畑井義隆（明治学院大学教授）
〃　吉田忠雄（明治大学教授）
〃　山口喜一（人口問題研究所人口情報部長）
〃　大淵寛（中央大学教授）
理　事　村松稔（国立公衆衛生院衛生人口学部長）
〃　岡崎陽一（人口問題研究所人口政策部長）

〃　江崎廣次（福岡大学教授）
〃　濱　英彦（成城大学教授）
〃　安川正彬（慶応義塾大学教授）
〃　河野稠果（人口問題研究所人口資質部長）
監　事　岡田　實（中央大学教授）
〃　河邉　宏（人口問題研究所人口移動部長）

研究報告会において行なわれた報告の題名および報告者を掲げると次のごとくである．

第1日（6月4日）

○一般報告

1　パプアニューギニア低地に住むギデラ族の人口移動……大塚柳太郎（東京大学）
　　鈴木継美（〃）
2　フィリピンの人口都市化の特徴―マニラ大都市圏を中心に―……谷　勝英（東北福祉大学）
3　地域人口一斉予測法―その問題点と改善策……佐々木　宏（岩手県立盛岡短期大学）
4　クロッス・セクション・データによる人口密度・増加率曲線に関する一考察
　　……鈴木啓祐（流通経済大学）
5　人口移動データと多地域生命表……南條善治（福島県立医科大学）
6　東北農村における出生力低下―岩手県と秋田県における事例調査―……渡邉吉利（人口問題研究所）
7　府県にみる出生力水準の地域差とその意義……濱　英彦（成城大学）
8　1980年代の出生力動向―イースタリン仮説を援用して―……大淵　寛（中央大学）
9　わが国の将来の出生変動に影響を与える人口学的要因について
　　―高学歴化と有配偶率―……伊藤達也（人口問題研究所）
10　出生力低下の背景に在るもの……岡崎陽一（人口問題研究所）
11　配偶関係における年次別変動の社会的文化的要因……山本文夫（中村学園大学）
12　E.C.ロードの人口の成長曲線とその適用について……高木尚文（帝京大学）
13　健康生存数曲線開発の試み……小泉　明（東京大学）
　　三浦邦彦（〃）
14　戦後日本の死亡力水準とその変動要因……高橋重郷（人口問題研究所）
15　そのごの明治32年（1899）の世代生命表……飯淵康雄（琉球大学）
　　比嘉恵子（〃）

○共通論題「海外諸地域の人口移動」報告

1　アメリカ合衆国の国内人口移動……兼清弘之（亜細亜大学）
2　ヨーロッパにおける人口移動……河野稠果（人口問題研究所）
3　中東地域の人口・労働移動―産油国の外国人労働者の問題を中心に―……水野朝夫（中央大学）
　　吉田良生（国士館大学）
4　アジア諸国の国内人口移動……大友　篤（宇都宮大学）
　　早瀬保子（アジア経済研究所）
5　東南アジアにおける伝統的移動パターンとその変動……坪内良博（京都大学）

第2日（6月5日）

○一般報告

16　人口移動補償関係の均衡化とその要因変化……前田俊二（久留米大学）
17　北海道の開発過程と人口変動―特に昭和30年以降について―……関　清秀（日本大学）
　　加藤修一（北海道大学）
18　世帯構成の地域差……山本千鶴子（人口問題研究所）
　　伊藤達也（〃）

19　戦後出生減少世代の世帯形成と移動……廣　嶋　清　志（人口問題研究所）
20　人口移動と家族構成―「地域」研究の一視点―……清　水　浩　昭（人口問題研究所）
21　絶対的過剰人口論の一考察―マルサス＝ダーウィン問題を中心として―……柳　田　芳　伸（関西大学）
22　人口移動の経済分析……松　下　敬一郎（京都大学）
23　高齢化に関する人口・経済モデル研究……小　川　直　宏（日本大学）
24　サービス経済化，高齢化及び失業率―都道府県データによる分析―……水　野　朝　夫（中央大学）
25　出生抑制効果の日米比較
　　―コンポウネンツ・アナリシスによる計画外出生の分析―……阿　藤　　誠（人口問題研究所）
26　「排日」移民法の虚実……吉　田　忠　雄（明治大学）
27　人口食糧問題の世界的課題……畑　井　義　隆（明治学院大学）
28　人口問題理念の研究（その１）問題意識の追求……篠　崎　信　男（人口問題研究所）
○シンポジウム「わが国の人口移動―その動向と政策―」　＜座長＞黒　田　俊　夫（日本大学）
1　人口移動と人口分布……大　友　　篤（宇都宮大学）
2　定住圏と地域人口……河　邉　　宏（人口問題研究所）
3　人口移動と開発……関　　清　秀（日本大学）
総括―過密・過疎は解消できるか―……黒　田　俊　夫（日本大学）